

まちづくり委員会 事業計画（案）

まちづくり委員会 委員長 石渡 淳

人口減少社会到来による少子高齢化と人口流出が問題視されている現代において、生まれ育ったまちに住み続けたいと思える魅力溢れるまちづくりへの取り組みについて考える機会が訪れています。自然災害への危機感と防災減災への当事者意識が高く、地域資源と現代文化の融合から魅力を創出し続けることができ、地域に対する深い関心をもち、郷土愛が育まれた市民が地域の魅力を自ら発信できるまちづくりを進めていく必要があります。

まずは、被災した際の被害最小化を図るために、想定される被害を知り理解を深め自身の周りに発生するリスクについて考え必要な備えと対処方法を学び対応力を身につけることで、被災した際に素早く行動を起こし自分だけでなく周りにも気を配れる自助と共助の意識が育まれます。そして、災害時に命を守る行動がとれる市民を増やすために、将来起こりうる災害を想定し、地域における被害リスクの認識と対策方法を学び、緊急事態においても適切な判断と行動のできる自己防衛力を高めることで、防災への高い意識と対応力が身に付きます。さらに、地域資源を活かした新たな価値を創造するために、水戸に存在する地域資源を皆で共有し時代の変化に合った付加価値の可能性について考える場をつくり個々がもつ多様なアイデアと融合させることで、地域資源の持続的な発展につながる活用方法が創出されます。また、まちに対する高い関心と郷土愛を育むために、水戸にある地域資源の成り立ちや歴史的価値を学び、知識を深め現代の文化と融合し創出された新たな魅力と触れ合うことで、地域に誇りをもち自ら発信したいと思える意識が醸成されます。

自然災害への自己防衛力と共助の意識が高まり、水戸にある資源から創出した新たな魅力を自ら発信できるようになった地域には、自分の郷土に誇りをもてる活気に満ちた市民で溢れ、将来に夢を抱き続けながら安心して住み続けられる、持続可能なまちとなります。

<事業計画>

1. 減災意識向上事業の開催
2. 防災意識向上事業の開催
3. 水戸の魅力を創出する事業の開催
4. 郷土愛を育む事業の開催